

## 新島基金による新島講座について

### ○第四回新島講座

昨年十二月七日(火)・九日(木) 両日にわたり、現在、イギリス及びヨーロッパにおける日本研究の第一人者として活躍しておられ、その広い視野と学殖に支えられた数々のすぐれた業績を通して、すでに斯界の碩学として定評のある、ロンドン大学(SOAS)教授・日本研究所所長、ウイリアム・ジェラルド・ピースリー博士を迎え、公開講座・セミナーが開催されました。(グラビアページに講演模様を掲載)

十二月七日(火) 午後四時三〇分  
 セミナー  
 ○明治維新について―比較歴史的考察―  
 於、同志社大学神学館チャペル  
 講演・セミナーとも多くの聴衆を迎え、特にセミナーは予定時間を一時間ちかくも延長して熱心な質疑応答が行なわれました。なお、今年(昭和五十八年)七月頃、アメリカ、コーネル大学教授、セオドア・J・ロウイ博士を迎え第五回新島講座が開催される予定であります。

### 東京公開講演会

昨年十一月十三日(土) 東京・ヤマハホール(中央区銀座七丁目九-十四)にて、東京公開講演会が開催されました。

今回は、学校法人同志社新島講座第三回東京公開講演会ならびに同志社大学人文科学研究所第十一回公開講演会を合同で開催いたしました。

新島講座ならびに同志社大学人文科学研究所では、我が国の学術、文化の発展に資するため、現代にふさわしいテーマをとらえて、かねてから公開講演会を開催いたしております。

十三時三〇分から始まった講演会は、上野総長ならびに西田同志社大学人文科学研究所所長のあいさつ、杉井同志社大学人文科学研究所教授の司会で、笠井昌昭教授、安岡重明教授の順で行われました。演題ならびに講師

### ○縁起絵巻の世界

——日本人の信仰に関連して——  
 (スライド使用)

同志社大学文学部教授、笠井昌昭氏

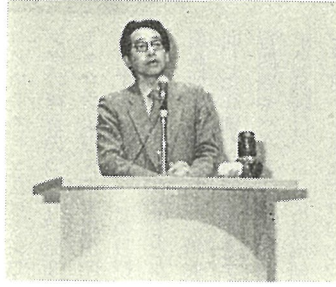
### ○財閥の家憲と華族の家憲

——とくに財産管理について——  
 同志社大学商学部教授、安岡重明氏

○外国における日本研究―その課題と方法  
 十二月七日(火) 午後一時三〇分  
 於、同志社大学神学館チャペル  
 ○一九世紀後半以降における英国人の日本イメージの歴史の変遷

紹介

東京公開講演会も今回で三回目を迎え、聴衆もさきの第一回、第二回同様多くの方々を迎え成功のうちに終わりました。



笠井昌昭教授

笠井昌昭教授の講演は、平安時代から室町時代にかけて画かれた絵巻物、とりわけ信貴山縁起絵巻を中心に、スライドを使用して解説、あわせて稲荷神社の祭神社、社殿、神使の由来を含め寺院や神社の起源・利生・靈験について日本人の神・仏に対する信仰にかかわる興味ある内容の講演が行われました。

なお、同教授の主要著書は、「信貴山縁起

絵巻の研究」平楽寺書店、「天神縁起の歴史」雄山閣、共著として「古代の造形」芸艸堂、などがあります。



会場風景

次に安岡重明教授は、明治時代にける財閥と華族の財産管理について財閥(三井家・安田家・住友家・鴻池家)華族(伊達家・近衛家)の家憲を具体的に示され各家ごとの財産の運営、保全の取り決め、およ

び同族全家、高級使用人の管理、財産および財産所有者に対する諸制限等の共通点、相違点について話され、先生の研究成果が多く含まれた講演でした。

同教授の主要著書には、「日本封建経済政策史論」有斐閣、「財閥形成史の研究」ミネルヴァ書房、「財閥の経営史」日本経済新聞社、編著として「日本財閥経営史・三井財閥」日本経済新聞社、などがあります。



安岡重明教授

なお、今年(昭和五十八年)十一月十二日(土)、ヤマハホールにて第四回東京公開講演会の開催が予定されています。